



## 第40号目次

1 P… 新年度に向けて 相川宗一会長挨拶 平成19年度活動目標・重点施策 ロゴマーク完成・事務局人事	医事委員会より
2 P… 第1回埼玉県4種リーグ開幕！ ～チームと運営担当者に聞く～	5 P… 大会記録
3 P… Go for 秋田わか杉国体～各監督に聞く～ 少年男子宮下監督と成年男子阿部監督	10 P… 技術委員会・審判委員会合同会議
4 P… 技術委員会・指導者登録料について 施設委員会・リコーグラウンドの使用について	11 P… 平成19年度予算案～財務委員会より
	12 P… インフォメーション ブリーフノート 編集後記

## 新年度に向けて

財団法人埼玉県サッカー協会 会長 相川宗一

平成19年度の事業が各専門委員会、各種別で始動していると思います。埼玉のサッカー向上に向けて、役員の方のご活躍を期待しております。

さて、本年度からSFAミッション「Wonderful Saitama～サッカーで幸せな埼玉県～」を掲げ、邁進することとなりました。2つのテーマと8つのミッションに対して、全メンバーが意識を一つにし、取り組んでいてもらいたいと思っています。

また、横山専務理事の強いリーダーシップのもと、事務局体制も強固なものになり、よりメンバーの方々の活動をサポートできるようになったと思います。

未来ある子供たちにいい環境を与えながら、幅広い世代の方々に「サッカーで幸せな埼玉県」を体感していただけるよう、皆さんと共に、努力していきたいと思っています。ご協力をお願いいたします。

### 平成19年度 活動目標

—SFAビジョン達成に向けて—

#### SFAビジョン

財団法人埼玉県サッカー協会は活気と秩序の潤いのある社会づくり・自立できる人間づくりに貢献し、地域コミュニティの再生を目指しています。

- CHQミッションの推進徹底
- スポーツ精神の啓発と自立できる人間づくり

#### 平成19年度 重点施策

—8つのミッション—

- Mission 1 学校を核にした地域活動、地域スポーツ活動の活性化
- Mission 2 M-T-Mメソッドの啓発
- Mission 3 ボランティアの協力要請
- Mission 4 医学・科学サポート体制の確立
- Mission 5 指導者養成事業の拡大
- Mission 6 レフェリー育成事業の充実
- Mission 7 サッカー施設の拡充（学校開放への働きかけ）
- Mission 8 健全運営と経営基盤の確立

#### ロゴマーク完成

県協会のロゴマークが完成した。埼玉県の県民の鳥「シラコバト」をモチーフに、埼玉県及びサッカーの「S」を形取ったもの。色はアカダイダイで、秩父の山々に沈む夕日をイメージしている。



Wonderful Saitama

#### 事務局人事

去る4月1日、宇月一郎事務局長の退任を受けて、県協会理事、財務委員長である高橋明氏が、事務局長に就任した。横山専務理事の下、手腕を発揮していただきたい。

また5月1日、浦和レッズより坂庭泉氏が事務局に着任した。高橋事務局長の下で総括、さらには技術委員会副委員長・指導者養成部長として活躍が期待されている。

また、ボランティア特命委員会も発足したが、詳細は次号とする。

### (財)埼玉県サッカー協会 事務局 業務分担表 2007年4月

#### 全体統括（高橋・坂庭）



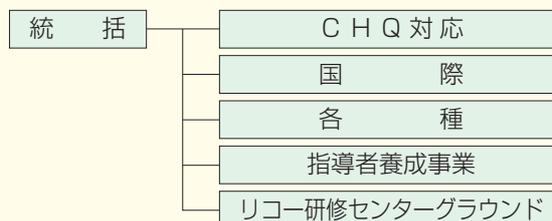
#### 総務（栗島・狩野）



#### 登録・普及（古市・東城）



#### 事業・技術（柴・法師人）



# 第 1 回埼玉県 4 種リーグ開幕！

～チームと運営担当者に話を聞く～

【チーム】 戸田南サッカー少年団  
団長補佐 佐藤栄喜さん  
6年生副団長 君塚 猛さん

## 「公式戦だと“スイッチ”が変わる」

佐藤「4種リーグの趣旨は、横山専務理事から直接聞きました。ここまで何年もかけて交流試合や主催大会を開催し、ようやく子供たちに多くの試合を経験させてあげられるようになりました。そこでこの4種リーグ参加は、人的に負荷が大きいのと思っていました。しかし、当初の16チームから8チームのホーム&アウェイとなり『とにかくやってみよう』という話になりました。

実際に参加して、子供から聞いたことですが、公式戦ではないと感じられないものがあると言います。公式戦だと“スイッチ”が変わるようです。試合数が増えたということは、メリットだ



君塚猛さん(左) 佐藤栄喜さん(右)

と思います。また従来の大大会では、県大会に進めるかどうか、くじ運に大きく左右されていました。勝っても負けても次があるリーグ戦は、子供たちにいい影響を与えてくれそうです」

君塚「普段試合をしない



チームと試合ができるというのは、子供たちに限らず、指導者にもいい緊張感が持てるようです。頭から『負けちゃうな』と思っている子供たちも、相手がどういうサッカーをしてくるのかわかります。そういうのを直接目で見て、雰囲気を楽しむことはいいことだと思います。ただ8チームだから参加できたというのがあります。16チームでは難しかったでしょう」

佐藤「スポンサー各社の協力は、大会そのものを盛り上げてくれています。立派な横断幕も効果的です。プログラムも従来、県大会のベスト16でなければ紹介されませんが、これはいい思い出になります。続けていくことが大事だと思いますね」

【運営】 埼玉県北部地区少年サッカー協議会・事務局 片野昌明さん

## 「北部は16チームでも可能。子供だけでなく大人も育てたい」

「この4種リーグ開催に合わせ、規律委員会を立ち上げるなど規約を改正しました。特に問題視されると思われた、父兄へのマナー向上を考え、規律委員会が父兄とチームに対して『指導を行える』としました。それだけ北部は、真剣に取り組もうとしているところです。開催に関しては、確かに様々な意見はありましたが、地区として全チームが参加してくれたことをありがたいと思っています。」



片野昌明さん

北部は4ブロックに分け(本庄、深谷、熊谷、秩父)、リーグ戦を開催しています。我々事務局は、各地区に回り、その反省点などを聞いて回っています。常に次回はよりよいものを、と

いう意識でやっています。

将来的には16チームでやりたいと聞いていますが、中途半端に12や14でやるよりは、次はもう16チームにさせていただいたほうがいいと考えています。これはチーム数が8で割り切れるというのが理由ですが、北部の場合、グラウンドの手配も試合



の運営もチームで行えるようになってきているからです。ですから、北部だけ先行して16チームにさせていただいてもいいのです。また、トレセンマッチデーのように、『リーグ戦の日』を制定してもらってもいいと思っています。

なぜそこまで言うかという、このリーグ戦が子供たちだけのためではなく、指導者や審判のためだからということを理解しているからです。実際、M-T-Mと言っても、中身がわからない大人が多いのが現状です。8月には北部の技術講習会を開催し、前期の反省点を振り返り、後期に活かしたいと思っています。

実際は手探り状態ではありますが、リーグ戦はいいことだと思います。でも、まだ構築しているところです。試合をやって終わりではないことを伝えていながら、改善していきたいと思っています。」

※結果と予定に関しては県協会ホームページをご参照ください。



少年男子・宮下雄全監督

## 「選手には“判断”を求めていく」

——まず監督として抱負を。

「埼玉は国体に対して強い意識を持っているだけに責任を感じている。関東を突破することも容易ではないが、ぜひ勝ち上がりたい。」

攻撃ではダイレクトプレーを常に意識し、できなければポジションと判断できるようにしたい。守備では、まずボールを積極的に奪うことを意識させている。難しいならばしっかり守る……やはりそこでも判断できるように求めている」

——選手に対して期待していることは。

「自分で考えてプレーできるようにしてもらいたい。そして当たり前のようにできるようにすること。」

国体に関して言えば、今は30人弱をベースに関東トレセンリーグを戦っているが、最終的には登録は16人で、試合に出られるのは11人。高い意識を持って、それぞれがライバルとしてのぎを削ってほしいと伝えている。実際、どの選手も試合に出たいという気持ちが表れ、トレーニングの中でもバトルしてくれており、いい雰囲気だ」

——SFAメンバーに向けて抱負を。

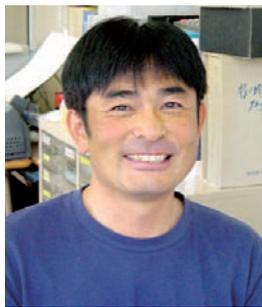
「今回のスタッフは、全員スタッフとして国体に臨むのは初めて。多くの方に練習、試合を見ていただき、アドバイスをいただければうれしい。耳を傾けて、改善していきたい」

——最後に、宮下監督自身にとって国体とは。

「自分を試せる場。高校時代、奈良国体に出場したが、緊張して思うようなプレーができず1回戦で負けたという苦い思い出がある。そういうことも選手たちに伝えたいと思っている」

### スタッフ

監督 : 宮下雄全 (和光国際高校)  
 コーチ : 平田孝弘 (志木高校)  
 コーチ : 小松 工 (新座第五中)  
 コーチ : 鬼丸豊次 (春日部武里中)  
 コーチ : 田畑昭宏 (浦和レッズ)  
 GKコーチ : 江口 洋 (川越南高)  
 GKコーチ : 石沢浩明 (狭山ジュニアユース)



成年男子・阿部直人監督

## 「目標は本大会で3位以内」

——今年5年目の監督。抱負をお願いします。

「昨年、一昨年と本大会に出場できていないことを申し訳ないと思っている。今年は本大会に出場し、埼玉の復活を賭けたい。本大会に向け、勝ちにこだわって戦うことを選手たちには強調したい」

——準備はどうでしょうか。

「5月3日に選考会を行い、18人に絞った。6月2、3日と合宿を行い、3日にはベルマーレのサテライトと練習試合を予定している。さらに6月20日には、16人に絞り込み、尚美学園大学と練習試合を行う。」

今年は与野蹴魂会が関東リーグに昇格するなどもあり、さらに選手を見る範囲は広がっている。より優れた選手たちに集まってもらい、結果を出したいと考えている」

——目標は。

「本大会で3位以内。ぜひご協力をお願いしたい」

### スタッフ

監督 : 阿部直人 (ホンダルミノッソ狭山)  
 アドバイザー・GKコーチ : 奥山和栄 ( // )  
 コーチ : 照井真展 ( // )  
 マネージャー : 磯貝 剛 (与野蹴魂会)  
 マネージャー : 村山秀樹 ( // )



### 女子

3月、正式に女子技術委員会が立ち上がり、トレセンの延長線上に国体があることを確認された。永井監督へのインタビューは次号にて。

### スタッフ

監督 : 永井良和 (浦和レッズ)  
 コーチ : 河合一武 (武蔵丘短期大学)  
 主 務 : 長谷川暁雄 (吹上高校・女子技術委員長)

### <国体予備予選>

#### 関東U-16トレセンリーグ

埼玉県 5-1 栃木県

## 技術委員会より

### (財)埼玉県サッカー協会指導者ライセンス登録料について

2007年4月17日

指導者ライセンス保有者の皆様へ

(財)埼玉県サッカー協会  
 会 長 相川宗一  
 技術委員長 小林 武

平素より本協会へのご理解とご協力、深く感謝しております。さて、去る1月の臨時理事会において一部規約改正がなされ、「指導者ライセンス保有者」の皆様に登録料(年間1,000円)を納入頂くことになりました。

本協会は、チーム、選手、役員に登録費で成り立っております。そのメンバーシップに基づき、すでに審判資格保有者の皆様にも登録費を納めて頂いており、今年度からは指導者ライセンス保有者の皆さんにも登録料を納めて頂くことになったものです。

これは、年々充実し続けている技術委員会の活動原資となり、委員会そのものの運営を円滑に行うものの財源となります。主事業であるトレセン、指導者養成などに伴う運営費、また皆さんとの連絡事務費に充てることにしております。

本協会としても、掲げた「SFAミッション」にありますように、

財政基盤の強化をすべく日々取り組んでおりますが、皆様からなるご協力、ご理解をいただき、一致団結して共に埼玉のサッカーの普及・育成・強化に邁進していきたいと考えております。最後になりましたが、可能性のある選手を一人でも多く育成する為、皆様のご尽力ご協力を宜しくお願い申し上げます。

#### ●(財)埼玉県サッカー協会指導者ライセンス登録費について

これは、以下の細則改正に伴うものです。

#### 細則・第9章「指導者」第51条 5

「日本協会公認指導者は、県協会に登録するとともに別表に定める登録料を納入しなければならない(2007年1月23日・改訂)年間登録料は1,000円。これを4年分一括で納入する(計4,000円)。

#### 【納入方法】

- ・既保有者…… KICK-OFF に登録いただいているご住所宛に後日ご案内をお送り致します。
- ・新規取得者… ライセンス取得講習会受講の際に徴収させていただきます。

## 施設委員会より

### 東松山リコーグラウンド利用に関して、再度のお願い

去る4月21日の関東クラブユース(U-18)リーグ戦と翌22日の関東社会人リーグ2部の試合において、太鼓を使用した応援があった。この2件に関して、リコー研修センターより苦情が入ったのでお知らせしておきたい。

これは、使用責任者とチームが、グラウンド使用上の注意を理解していなかったことに原因がある。大会などで使用する際には、使用責任者とチームが注意を徹底していただきたい。また追加事項として、グラウンド内への動物の連れ込みを禁止する。不祥事が起こった場合は以降、リコーグラウンドの使用を禁止することとする。

施設委員会としては、以下の対応策を行う。

- 1、使用許可書を渡す際、リコーグラウンドの「使用上の注意」を渡し、使用チームに徹底させる。
- 2、リコーグラウンドのフェンスもしくはネットに、応援の注意・ゴミの持ち帰りなどを書いた幕を数カ所に掲示する。
- 3、今後の検討事項として、このようなことが繰り返された場合の罰則規定を作成する。

## 医事委員会より

### サッカー中の“脳震盪”に対する提言

4月7日レッズvsジュビロ戦でのGK川口選手、4月21日の柏vs甲府戦でのDF石川選手と、このところ脳震盪と思われるものの中でも意識障害の強いケースが相次いで発生しています。脳神経外科医の中では脳震盪に対する考え方はほぼ統一されていますがスポーツの現場では必ずしもそうではなく、特に現場に医師のいないレベル、例えば2種、3種、4種、女子の試合では大会運営者(主催者)、審判、監督・コーチ等とある程度意識を統一させておくべきでしょう。特に3種、4種等の発育期の子どもの場合はより慎重に考えるべきであり、殆どの場合は何の後遺症も残さないいわゆる脳震盪ですむのですが、だからと言って「多分大丈夫だろう」という見込みで対処するのではなく「常に悪いほうを想定する」ことも必要です。小野陽二日本ラグビー協会メディカルソサエティ委員によるとラグビーではIRB(International Rugby Board)に脳震盪に関する取り扱いが明文化されているそうですが、サッカーでは十数年前に日本サッカー協会医事委員会の見解として取りまとめられたことはありましたが、医事委員会の中での取り決めに終わりサッカー界全体の意識改革には至りませんでした。“脳震盪”というのは、あくまで後日何の脳機能障害を残さない、一過性の障害を言うのであり、倒れたその場で“脳震盪”と診断できるというものではなく、もしかするとその意識障害(意識消失がない場合も含め)は生命の危険に直結する硬膜下血腫や脳挫傷の始まりなのかもしれません。

従ってサッカー中に意識障害が生じた場合には、たとえそれが一分間で回復して、全く何でもないように思えても(多分殆どのケースでは何ともなく経過するのですが)、直ちにプレーをやめさせて、その選手(GKであっても)を交代させ、最低でも30分間は注意深くその選手の状態を監視しておく必要があります(その際選手を一人で帰してはいけなく、必ず指導者なりチームメイトなりが付き添っていくべきです。一人で医療機関へ向かう途中で意識障害を起こしてしまったケースもあるからです)。

プレーをやめさせるもう一つの理由として“セカンドインパクト症候群”と呼ばれる危険性が挙げられます。一度頭部外傷を受けて脳に軽微でも障害が起きている時に、二度目の衝撃を受けると、より重症になる危険が増すというものです。それ故にたとえ軽微で、ごく短時間の意識障害であってもプレーはやめさせるべきなのです。脳震盪を起こすようなプレーは、例えばGKではハイボールのキャッチングの際の落下時、DFならばヘディングの際のバッティング等が代表的なプレーでしょうが、GKやDFはイヤでもそういう場面に遭遇する機会が多いのですからセカンドインパクト症候群を起こす危険も多いのです。

再度、グラウンドの使用上の注意を掲載する。理解をお願いしたい。

- 1、無断立ち入り禁止(申請書を必ず受付に提出してから利用してください)。
- 2、圧縮LPGタンク周辺は火気厳禁(禁煙)。
- 3、ゴミは持ち帰りください。
- 4、車は、サッカー利用者用の駐車場に(路上駐車禁止)。
- 5、研修センター・サブグラウンドへは許可者以外、立ち入り禁止です。
- 6、使用責任者は、申請書を研修センター内の受付に提出してください。申請書がない場合、サッカー場の使用はできません(県協会の承認印のない申請書は使用許可できません)。
- 7、周辺住民に迷惑がかかりますので大声での応援、太鼓・吹奏楽・エアホーン、チアホーンなどの鳴り物による応援はできません。
- 8、サッカー場内へは水以外の飲み物は持ち込まないでください。

試合後も、一見何ともなく、脳神経外科医の診察で“問題なし”と言われてもすぐに練習を再開させてはいけません。練習中にセカンドインパクト症候群を起こす危険もありますし、微少な出血(軽微な脳挫傷)が起きてても何の脳機能障害も呈さない場合もあり、その後一週間ぐらいかけて遅発性の脳挫傷内出血が起こり、重篤な症状へと発展することも時々見られます。この場合でも受傷時にはわからないことがほとんどなのです。このようなことが起こり得るということを常に考慮しておかなければならないからです。

前述したように殆どの場合は何ともなく経過するのですが、なにかあった時には生命に直結する危険となるわけですから、少々オーバーですが次のように考えて下さい。勿論、ルールで決められるような性質のものではありませんが、当面埼玉県サッカーファミリーの方々にはこのように考えて最低限の共通認識としてください。但し、一人一人の年齢や受傷の程度によって異なるものですし、最終的な判断は脳神経外科医の診察によって決まることは言うまでもないことです。

#### 脳震盪に対するガイドライン((財)埼玉県サッカー協会)

##### ①試合中に脳震盪と思われるような場合

- (1)直ちにプレーを中断し、速やかに退場させる。  
(たとえ1分間で意識レベルが回復したとしても)
- (2)レフェリーは“大丈夫か?”と何度も選手に聞いて時間をロスさせることなく、速やかにチームドクターをピッチに入れて診断させる。
- (3)何ともない場合でも、その後最低30分間は注意深く監視して、異常があれば直ちに救急車で脳神経外科へ(CT又はMRI検査を)。
- (4)試合終了後は、当日のうちに脳神経外科を受診。  
(必ず付き添いをつけること、家族に連絡しておくこと)

##### ②練習再開は2Wしてから。

③試合出場は5Wしてから。(必ず脳神経外科医の許可を得てから)  
(注1)選手の出場・退場を決めるのは監督ですが、特に子どもの場合には“生命”ということをも最優先に考え、大会運営に携わる人、レフェリー、監督・コーチ等全ての人が共通した認識をもって決めていきたいものです。

(注2)この件については埼玉県サッカー協会から、正式に日本サッカー協会へ提案していく予定です。いずれ近いうちに日本サッカー協会から指針のような形で、各都道府県協会へ下りてくると思いますので、それ迄の間は、このガイドラインを参考にしてください。

(財)埼玉県サッカー協会 医事委員会

委員長 鶴岡 明

副委員長 塩野 潔

脳震盪に関する検討委員会委員長 小林督志

# 大会記録 1

## ●県内大会

### 1種・社会人

#### 平成19年度埼玉県社会人リーグ1部

●5月20日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	アヴェントゥーラサイタマ	7	0	1	21	+18
2	飯能セボジータス	7	0	1	21	+12
3	浦和レッズアマ	6	1	1	19	+20
4	パイオニア川越	3	2	3	11	-1
5	FC西武台	3	1	4	10	-3
6	武南クラブ	3	1	4	10	-8
7	川越全酪SC	2	2	4	8	-5
8	川口SC	2	2	4	8	-7
9	越谷FC	1	1	6	4	-8
10	深谷クラブ	1	0	7	3	-18

#### 平成19年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会予選

3月4日～18日 熊谷文化運動公園他

##### ●県1、2部リーグトーナメント

決勝戦 パイオニア川越 3-0 川口SC

※パイオニア川越が彩の国カップに出場する。

##### ●各地区トーナメント

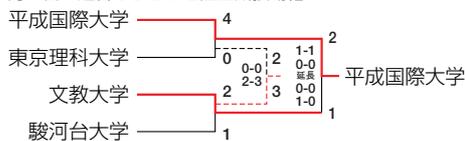
決勝戦 FCパシヨネット(南部) 6-4 W・A・S・T入間(西部)

※FCパシヨネットが彩の国カップに出場する。

### 1種・大学

#### 第21回埼玉県大学サッカー選手権 兼 総理大臣杯埼玉県代表決定戦

4月1日～5月6日 越谷しらこぼと陸上競技場他

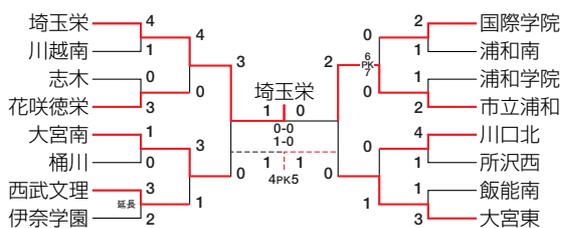


※優勝した平成国際大学と準優勝した文教大学は、6月19日からの総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント都県代表決定戦に出場する。

### 2種・高校

#### 平成19年度関東高等学校サッカー大会埼玉県予選

4月14日～29日 浦和駒場スタジアム他



※3位までが関東大会に出場する。埼玉栄は初優勝、初出場。準優勝の市立浦和は2年ぶり19回目の出場。3位の大宮東は5年ぶり6回目の出場。



決勝戦 埼玉栄-市立浦和



3位決定戦 大宮東-大宮南

#### ●平成19年度関東大会埼玉県予選総括

伊奈学園総合高等学校 二見 元

平成19年度関東大会は、東京都で開催される50回記念大会である。関東プリンスリーグに出場している武南高校、浦和東高校を除く、新人大会出場の14チームに各支部予選を勝ち抜いた16チームが参加して行われた。

記念大会として各県3チームが(例年各県2チーム)出場できるとあってプリンスリーグに出場できなかったチームが次なる目標に掲げた大会であった。一回戦から西武台vs国際学院、浦和南vs正智深谷という好カードが展開される中、ベスト4に進出したのは新人大会優勝の埼玉栄、新人大会ベスト4の大宮東、U-17トップリーグで善戦した市立浦和、年々力をつけてきている大宮南の4校であった。準決勝は埼玉栄が3対0で大宮南を、市立浦和が2対0で大宮東を下し決勝進出を果たした。

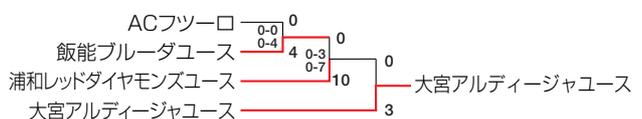
3位決定戦は勝者に関東大会の出場権が与えられるゲームとなり、例年に比べ1点を争う一進一退の好ゲームとなった。大宮南が中央からパスで崩し先制すると、大宮東は左サイドをえぐって同点に追いつき前半終了。後半に入ると両チームの時間帯があるものの、お互いにフィニッシュの精度を欠き延長戦に入った。延長戦も両者譲らずPK戦となり、8人が蹴ったPKを大宮東が制した。ペナルティキックの一蹴りが勝敗を決め、その勝敗が大会の出場権を決める、改めて「蹴る」技術の大切さを痛感したゲームであった。

決勝は中央リーグ、U-17トップリーグでも対戦し3回目の対戦となった市立浦和高校対埼玉栄高校の一戦となった。立ち上がりからお互いボールに厳しくプレスをかける中、前半20分を過ぎると埼玉栄がボールを支配し市立浦和が粘り強く対応する展開で前半終了。後半も埼玉栄は積極的に攻撃を仕掛けクロスボールから先制するとショートパス、サイドチェンジからチャンスを作る。市立浦和もしっかり守ってカウンターで仕掛けるが得点まで至らない。そのまま1対0で勝利した埼玉栄高校が大会を制し、関東大会初出場を果たした。準優勝の市立浦和高校、第3位の大宮東高校とともに本大会での活躍を期待したい。

#### 平成19年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会予選

4月3日～5月16日 与野八王子グラウンド他

##### ●2種クラブ決定戦



※大宮アルディージャユースが彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会に出場する。

## 大会記録 2

### 女子

#### 第15回埼玉県女子リーグ1部

●4月23日現在

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負
1	FC JAM-G	3	1	1	0	0
2	SEフィリアFC	1	1	0	1	0
2	ASエルフェン	1	1	0	1	0
4	上福岡女子SC	1	1	0	1	0
4	埼玉大学	1	1	0	1	0
6	妻沼毎日	0	1	0	0	1
7	山村女子高校	0	0	0	0	0

#### 平成19年度学校総合体育大会高校女子サッカーの部

4月28日～5月13日 尚美学園大学他

##### ●準決勝トーナメント

埼玉栄	6	本庄第一	3
入間向陽	7	浦和西	0-0
花咲徳栄	1	川口総合	0-1
大宮開成	0	和光国際	1
松山女子	0	山村女子	0-0
久喜	1	埼玉平成	3-0

##### ●決勝リーグ

	埼玉平成	埼玉栄	本庄第一	久喜	勝点	得失差	順位
埼玉平成	*	○2-0	○2-0	●1(4PK5)1	9	+4	1
埼玉栄	●0-2	*	○2-1	○3-0	8	+2	2
本庄第一	●0-2	●1-2	*	○3-0	4	0	3
久喜	○1(5PK4)1	●0-3	●0-3	*	2	-6	4

※埼玉平成高校は4年連続9回目の優勝。上位4チームは6月16日から山梨県で開催される関東大会に出場する。



決勝リーグ 埼玉平成-埼玉栄



決勝リーグ 本庄第一-久喜

#### 第4回埼玉県女子U-15リーグ

●1日目終了時点(17チーム参加)

SEフィリアFC	2-2	エンジェルスU-13
川口FCスピリッツ	0-4	SCジュベニール
吉見エスカーラ	1-3	エンジェルスU-15
エンジェルスU-13	0-2	川口FCスピリッツ
SCジュベニール	2-4	吉見エスカーラ
FC JAM-G	1-1	エンジェルスU-15

#### 第12回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会

4月21日～30日 埼玉スタジアム第3グラウンド他

##### ●決勝トーナメント

準々決勝	浦和レッズJrL	2-0	浦和本太L
	秩父D.L.L	0-3	大宮FCエンジェルス05
	JAM-G	2-0	上福岡女子
	光陽中学校F	0-2	エルフェン狭山
準決勝	浦和レッズJrL	2-0	大宮FCエンジェルス05
	JAM-G	1-6	エルフェン狭山
3位決定戦	JAM-G	0-3	大宮FCエンジェルス05
決勝	浦和レッズJrL	1-0	エルフェン狭山

※上位3チームは6月9日から埼玉県で開催される関東大会に出場する。

### シニア

#### 南部リーグ

●5月20日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	浦和	5	1	0	16
2	所沢	5	0	1	15
3	東春	4	1	1	13
4	NTT	4	0	2	12
5	新明	4	0	2	12
6	川越	3	1	1	10
7	蕨	3	1	1	10
8	パルス	2	4	0	10
9	川口	2	1	2	7
10	大宮	2	1	2	7
11	八潮	1	1	3	4
12	与野	0	1	4	1
13	戸田	0	1	5	1
14	越谷	0	1	5	1
15	鴻巣	0	0	6	0

#### 県50リーグ

●5月7日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	川越	5	0	0	15
2	与野	4	1	0	13
3	NTT	4	0	1	12
4	パルス	3	2	0	11
5	蕨	3	1	1	10
6	本庄	2	2	1	8
7	熊谷	2	1	2	7
8	深谷	2	0	3	6

#### 北部リーグ

●5月13日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点
1	東松山OP	5	0	0	15
2	行田	3	1	0	10
3	本庄	3	1	0	10
4	児玉	3	0	1	9
5	東松山P	2	2	0	8
6	吉見	2	1	1	7
7	秩父	2	0	3	6
8	小川	2	0	2	6
9	熊谷	0	3	1	3
10	寄居	1	0	3	3
11	鳩山	1	0	3	3
12	深谷	0	2	2	2
13	めめま	0	0	4	0
14	セントラル	0	0	4	0

#### 県60リーグ

●4月15日現在

	FFC	パルス	ポラリス	Gファイター	勝点	得失差	順位
FFC	*	△1-1	-	○3-1	4	+2	1
パルス	△1-1	*	○2-1	-	4	+1	2
ポラリス	-	●1-2	*	△0-0	1	-1	3
Gファイター	●1-3	-	△0-0	*	1	-2	4

# 大会記録 3

## フットサル

### 埼玉県フットサル1部リーグ

●5月19日現在

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	Pure City IMPERIO	2	0	0	6	+20
2	ロクFC	2	0	0	6	+17
3	I.F.C/tzk	2	0	0	6	+15
4	坂戸龍門	1	0	0	3	+1
5	マカブ〜	0	1	0	1	0
6	M.f	0	1	1	1	-12
7	1FC川越水上公園	0	0	2	0	-4
8	F&F	0	0	2	0	-13
9	KGS	0	0	2	0	-24

## ●県外大会

### 1種・社会人

#### 2007年度関東社会人リーグ1部

前期

第1節	ホンダミノツ狭山	2(1-1)(1-2)	3	FC町田ゼルビア	得点者:鈴木2
	埼玉SC	1(0-0)(1-0)	0	T.F.S.C.	得点者:北原
第2節	日立栃木UVASC	1(0-1)(1-1)	2	ホンダミノツ狭山	得点者:鈴木、箕輪
	東邦チタニウム	0(0-1)(0-2)	3	埼玉SC	得点者:甲能、島、大野
第3節	ホンダミノツ狭山	1(0-0)(1-0)	0	T.F.S.C.	得点者:鈴木
	埼玉SC	1(0-3)(1-2)	5	FC町田ゼルビア	得点者:石丸
第4節	東邦チタニウム	2(1-1)(1-0)	1	ホンダミノツ狭山	得点者:中村
	日立栃木UVASC	3(2-1)(1-0)	1	埼玉SC	得点者:古市
第5節	埼玉SC	2(0-1)(2-0)	1	Y.S.C.C.	得点者:大野、宮2
	ホンダミノツ狭山	0(0-0)(0-0)	0	矢板SC	得点者:山手
第6節	埼玉SC	1(0-1)(1-1)	2	ホンダミノツ狭山	得点者:中村、小林

※前期6節を終え、狭山が3位、埼玉が4位

#### 2007年度関東社会人リーグ2部

前期

第1節	厚木マーカス	1(1-0)(0-2)	2	与野蹴魂会	得点者:堤、横田
	飯能ブルーダー	1(1-0)(0-0)	0	クラブドラゴンズ	得点者:石牟礼
第2節	与野蹴魂会	2(1-1)(1-1)	2	飯能ブルーダー	得点者:谷2
	飯能ブルーダー	1(0-0)(1-1)	1	青梅FC	得点者:笹野
第3節	古河千葉	4(2-1)(2-2)	3	与野蹴魂会	得点者:前田、武藤、谷
第4節	神奈川県教員SC	4(4-0)(0-3)	3	飯能ブルーダー	得点者:河崎、石牟礼2
	葦崎アストロス	1(0-0)(1-0)	0	与野蹴魂会	得点者:谷7、前田、堀込
第5節	飯能ブルーダー	1(1-0)(0-1)	1	古河千葉	得点者:谷7、前田、堀込
	青梅FC	3(3-5)(0-4)	9	与野蹴魂会	得点者:谷7、前田、堀込
第6節	葦崎アストロス	0(0-0)(0-0)	0	飯能ブルーダー	得点者:堤、谷
	与野蹴魂会	2(0-0)(2-0)	0	神奈川県教員SC	得点者:堤、谷

※前期6節を終え、与野が3位、飯能が5位

### 1種・大学

#### JR東日本カップ2007 第81回関東大学サッカーリーグ2部

前期

第1節	神奈川大学	0-1	尚美学園大学
	専修大学	1-1	城西大学

第2節	国際武道大学	1-2	尚美学園大学
	東京農業大学	1-1	城西大学
第3節	東京農業大学	1-3	尚美学園大学
	日本体育大学	2-2	城西大学
第4節	日本体育大学	1-2	尚美学園大学
	亜細亜大学	0-1	城西大学
第5節	専修大学	1-0	尚美学園大学
	神奈川大学	3-1	城西大学
第6節	帝京大学	1-1	尚美学園大学
	国際武道大学	0-0	城西大学
第7節	拓殖大学	1-1	尚美学園大学
	慶應義塾大学	4-1	城西大学
第8節	尚美学園大学	2-1	城西大学
第9節	尚美学園大学	3-2	桐蔭横浜大学
	帝京大学	2-1	城西大学
第10節	慶應義塾大学	1-2	尚美学園大学
	拓殖大学	4-1	城西大学

※第10節を終え、尚美学園大学は1位、城西大学は12位。

### 2種

#### 2007年度プリンスリーグ

##### ●グループA

第1節	武南高校	0(0-0)(0-0)	0	習志野高校
第2節	武南高校	1(1-0)(0-1)	1	鹿島学園高校
	得点者:吉田			
第3節	武南高校	0(0-2)(0-3)	5	東京ヴェルディ1969ユース
第4節	前橋育英高校	1(0-1)(1-2)	3	武南高校
	得点者:平賀			得点者:松本、磯部、久保
第5節	桐蔭学園高校	0(0-0)(0-0)	0	武南高校
第6節	武南高校	1(1-0)(0-0)	0	葦崎高校
第7節	市立船橋高校	1(1-0)(0-1)	1	武南高校
	得点者:久保			

※第7節終了時点で武南高校は6位。



グループA 武南高校-習志野高校

##### ●グループB

第1節	浦和東高校	1(1-3)(0-0)	3	流通経済大学付属柏高校
	得点者:有江			
	浦和レッズユース	1(0-1)(1-0)	1	八千代高校
	得点者:山田			
第2節	鹿島アントラーズユース	1(0-0)(1-3)	3	浦和東高校
	得点者:有江3			
	FC東京U-18	3(2-1)(1-2)	3	浦和レッズユース
	得点者:山田、濱田、林			
第3節	湘南ベルマーレユース	2(2-0)(0-0)	0	浦和東高校
	浦和レッズユース	2(0-0)(2-2)	2	流通経済大学付属柏高校
	得点者:原口2			
第4節	浦和レッズユース	3(2-1)(1-0)	1	鹿島アントラーズユース
	得点者:矢部、高橋、林			
	前橋商業高校	0(0-1)(0-2)	3	浦和東高校
	得点者:有江2、竹川			

## 大会記録 4

第5節	湘南ベルマーレユース	0(0-0)(0-1) 1	浦和レッズユース 得点者:宮川
	浦和東高校	1(1-2)(0-1) 3	佐野日本大学高校 得点者:齊藤
第6節	前橋商業高校	2(0-1)(2-7) 8	浦和レッズユース 得点者:林、宮川2、高橋2、鈴木、阪野2
	浦和東高校	1(0-0)(1-1) 1	桐光学園高校 得点者:竹川
第7節	浦和東高校	0(0-2)(0-2) 4	浦和レッズユース 得点者:宮川、池田、山田、林

※第7節終了時で浦和レッズは3位、浦和東高校は7位。

### 3種

#### JFAプレミアカップ2007

5月3日～5日 Jヴィレッジ

##### ●1次リーグ・グループC

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失点差
1	大宮アルディージャジュニアユース	3	0	0	9	+5
2	ガンバ大阪ジュニアユース	2	0	1	6	+7
3	田隈フットボールアカデミー	1	0	2	3	-4
4	クレフィオFC山口	0	0	3	0	-8

##### ●決勝トーナメント

準決勝 大宮アルディージャ 0-2 ヴェルディ

※優勝はガンバ大阪。世界大会に出場する。

### 女子

#### MOCなでしこリーグ・DIVISION 1

第1節	浦和レッズ	4(3-0)(1-1) 1	新潟L 得点者:矢野、安藤2、北本
第2節	伊賀FC	1(0-3)(1-2) 5	浦和レッズ 得点者:窪田、北本2、安藤、矢野
第3節	浦和レッズ	2(0-0)(2-1) 1	INAC 得点者:松田、オウンゴール
第4節	湯郷ベル	0(0-0)(0-0) 0	浦和レッズ
第5節	浦和レッズ	0(0-0)(0-1) 1	TASAKI

※第5節終了時で浦和レッズは3位。

#### MOCなでしこリーグ・DIVISION 2

第1節	市原千葉	2(1-1)(1-1) 2	AS狭山 得点者:山崎、関根
第2節	AS狭山	0(0-2)(0-2) 4	福岡AN
第3節	マリゼ	4(2-0)(2-0) 0	AS狭山

第4節	AS狭山	0(0-1)(0-1) 2	FC高槻
第5節	清水第八	1(0-1)(1-1) 2	AS狭山 得点者:関根、保谷

※第5節終了時でAS狭山は6位。

#### 第13回関東女子サッカーリーグ

##### ●5月20日現在(第4節終了時)

順位	チーム名	勝	分	負	勝点	得失差
1	日本体育大学	3	1	0	10	+9
2	日テレ・メニーナ	3	0	1	9	+4
3	横須賀シーガルズ	2	1	1	7	+8
4	浦和レッズJr	2	0	2	6	+2
5	神奈川大学	2	0	2	6	-4
6	東京女子体育大学	1	0	3	3	-3
7	浦和本太レディース	1	0	3	3	-7
8	武蔵丘短期大学	1	0	3	3	-9

### フットサル

#### 長野オープンU-23フットサル選抜交流大会2007

3月17日・18日

##### ●予選リーグ

石川県選抜U-23 1-15 埼玉県選抜U-23

長野県選抜U-23 4-4 埼玉県選抜U-23

※予選リーグ1位で決勝トーナメントへ

##### ●決勝トーナメント

準決勝 埼玉県選抜U-23 12-1 愛知県選抜U-23

決勝 埼玉県選抜U-23 7-4 東京都大学選抜

※埼玉県選抜U-23が初優勝。

#### 第3回彩の国フットサルフェスタ2007

3月24日・25日 富士見市立総合体育館

	兵庫	埼玉	埼玉U-23	京都	勝点	得失差	順位
兵庫県選抜	*	○6-5	○8-2	○8-7	9	+8	1
埼玉県選抜	●5-6	*	○5-4	△6-6	4	0	2
埼玉県選抜U-23	●2-8	●4-5	*	○8-5	3	-4	3
京都府選抜	●7-8	△6-6	●5-8	*	1	-4	4

※優勝は兵庫県選抜。埼玉県選抜は準優勝。

## 技術委員会・審判委員会合同会議開催

去る5月8日、高体連顧問総会直後に両委員会雄志が集まった。以下内容の抜粋である。

—まず昨年のトレセンに審判派遣をしていただいたことの総括を。

**濱名**「いい形でできていると思っていたが、コーチは選手を見るのに一生懸命で、審判へのアドバイスはあまりなかったようだ。また、選手のために少々のファールは流そうという話もしていたが、徹底できなかった。今年に向けては再検討してもらいたい」

**岡田**「こういうプレーがいいプレー、こういうプレーはやってはいけないことを技術委員会からレフリーにも示してほしい。実際、4種の年代を吹いている人の中には、サッカーをしたことのない審判もいる。だからどれが『いいプレー』で『悪いプレー』か、『汚いプレー』と『激しいプレー』がわからないのだ」

**小林**「現場のスタッフはセレクトのため忙しいのが現実。しかし、技術としては、来てくださる審判に意見をやる担当をつける」

—今後の交流について、意見をかわしてほしい。

**濱名**「高校の試合を一般の人たち(審判)に吹いてもらって欲しい。しかし、高校の指導者と一般の人たちの意識にギャップがある。選手権が終わった後にでも、交流の場が持てないだろうか」

**小林**「できると思う」



後列左から:木村氏 東城氏 上荒氏 齊藤氏 濱名氏 岡田氏  
前列左から:野崎氏 長谷川氏 小林氏 福田氏

**岡田**「ジャッジに関しては、技術としては言いづらいものがあると思うが、話し合いができる雰囲気はつくりたい」

**小林**「ならば、結果が出る前がいいか(笑)。選手権が終わった後ならば、技術としては総括を出しているのだから、審判と突き合わせてもいい」

**福田**「一般の人に吹いてもらっていて、随分勉強しているなというの感じますが、若い人は特にサッカーについては、まだまだという人がいるのも確か。逆に僕らがファールをわかっていないというの、審判の方々は感じているかもしれない。交流は必要だと思う」

**濱名**「審判のレベルが上がると指導者も選手も助かる。例えば、福田さんが審判に『サッカー、やってないでしょ』と言ってほしい。そうしたら、危機感を持つんだから。そういう話を公でしてくれることが、埼玉のサッカーのレベルを上げることになると思う。」

それ以上に深刻なのは、審判の数。人数はいても、実際にできる人は限られている。昔は皆さんも嫌々やっていたでしょう(一同・笑)。でもだから、レベルは“そこそこ”だった」

**斉藤**「高体連も中体連も、昔は指導者が監督兼コーチ兼トレーナー兼審判で大会を運営してきた。それが今審判をしている人たちは、選手として早く見切りをつけて審判になった人たちが多く。だからサッカーをしていないのだ。そうではなく、高校や大学の指導の現場で、生徒や学生に選手兼レフェリーとしてやっていくんだという意志を持ってもらう土壌を作ってもらいたい。審判も、プレーヤーとしての経験は必要なんだから」

**小林**「審判の実技研修のところに出かけていくのもいいと思う。サッカーそのものの実技指導も行えればいいのでは。技術と審判で試合をやるのもいい。でも、絶対適わないと思う。(我々は)走れないから(一同・笑)。お互い仲間としてやっていこう」

——何か一言。

**野崎**「(審判の皆さんは)よく、嫌なことをやっているなと思いますね(一同・笑)。すばらしいですよ。私もやりますが難しい。わかっているが、試合になると……あれこれ口に出していますが、あれは選手に言っているんですよ(笑)」

**長谷川**「女子の審判のレベルは高いとは言えない。自分の教え子から審判が出たかと聞かれれば出ていない。まだまだやることはたくさんあると気づかされた」

**福田**「いつも思っていることは、審判も自分でサッカーやってほしいなということ。逆に指導者養成のところでもっと審判を勉強しなければならないと思う。あと顧問が審判資格を取らなければ」

**濱名**「そういう働きかけも必要。でなければ、どんどん審判が

減ってしまう。一般人だって、プレッシャーのかかる試合をやるという人は少ない。やはり、審判の価値を上げていかないと」

**上荒**「審判も技術も行き着くところは、サッカーを知っているかどうか。知っている人はある程度できる。」

審判が少なくなっている。だから、生徒だけ集めた研修会もやっていかなければならない。あと副審をしている生徒を保護することも考えなくてははいけない。

あとルールを知らないで、やっている人が多い。これは永遠の課題だ。部活の中で4級のテストぐらいはやってほしい」

**斉藤**「私自身、県中体連の審判委員長をしながら、県選抜の監督をしたこともあった。両方に関わることは当たり前のことだ」  
**東城**「審判もルールだけでなく、技術とか指導することも知らなければならない。指導者もルールの話をするところがあるはずだ。今年もトレセン講習会に関して、事務を担当するのでよろしく願います」

**木村**「選手として試合に出たことのない審判が増えている。サッカーそのものの速さだけでなく、選手の圧力、ベンチの圧力、観客のプレッシャーに弱い。技術からプレッシャーをかけてもらって、その中でも正確なジャッジができるレフェリーを育成していきたい」

スタッフ全員が揃っての会ではなかったが、有意義な時間が持てたのではないかと。埼玉サッカーを支える“両輪”として、今後も交流を深めてもらいたい。

#### 出席者

##### 技術委員会：

小林 武・委員長  
野崎正治・副委員長  
福田直史・2種委員長  
長谷川暁雄・女子委員長

##### 審判委員会：

岡田 泉・委員長代理  
濱名哲也・副委員長  
斉藤由雄・副委員長  
木村 滋・指導部  
東城 穂(事務局)

## 2007年度 GKトレセンについて

東南地区チーフ(U-18担当)  
塚本 卓司(所属：桶川西高校)

本年度もGKトレセンを開催することとなりました。東南地区では駒場サブグラウンドにて年間7回実施します。取扱うテーマは「シュートストップ」「ブレイクアウェイ」「クロス」の3つを数回に分けて実施予定。これまでの活動により県内の

GKの基本技術も向上しております。そこで、今年は基本技術の習得はもちろんですが、さらに『観る』ことで『伝え』、味方を『動かす』ことのできるGKの育成をコンセプトに活動していきたいと思っています。埼玉のGKがレベルアップするため、スタッフも精力的に活動しております。皆様のご協力、ご理解よろしく願います。



## 埼玉県社会人サッカーリーグの改編について

はじめに、現行の埼玉県サッカーリーグ(以下県リーグという)のシステムが施行され、6年が経過し、当初の目的であるリーグの活性化・競技力の向上・サッカーの普及等において概ね成果が上がってきていると思われる。

しかし、現行のシステムが考案され検討していた時代を顧みると、2002年日韓ワールドカップを機にサッカーを取り巻く環境や背景は大きく変わってきており、特に県リーグシステムにおいては、チーム数や昇降格数の矛盾点及び競技者の意識の変化がある。これらはチーム力や資質の低下につながり、県リーグ全体に影響を与え始めている。

そこで、これらの状況を打破し、近未来を考慮した参加チームが夢を持てるリーグ体系となるように下記の通り改編する。

### <目的の確立>

埼玉県社会人サッカーリーグとは埼玉県のアマチュア(1種)で組織されたリーグであり、埼玉県社会人サッカー連盟の主幹事業である。このリーグは、より質の高い試合・運営を実施するためにチームの強化・人材の育成を積極的に行い、サッカーの普及に尽くすとともに、多くの人々に夢と感動を与えることを目的とする。

### <改編体系について>

・1部リーグ：10チーム→8チーム H/A制 56試合  
より厳選されたチームで上位リーグを目指すために構成されたリーグとする。

・2部リーグ：16チーム→20チーム 10・10 ABブロック H/A制 180試合

このリーグの最大の強化対策であり、18試合を行うことでより強いチームを上位に送り込むことを目的とする。

・3部リーグ：16×4→12×4 1回戦総当たり264試合  
他大会へのチャレンジがしやすくなり、多くの交流が持て、ブロックリーグの空洞化対策にもなる。関係役員については運営にも余裕ができ、地域活動等にも積極的に参加できるようになる。

この度の改編は2部リーグの強化が中心であるが、改革移行後は4地区運営委員会の協力が必須条件となる。また、改編は平成19年度の実績を元に20年度より実施していくがリーグ運営においては年間を通じて行う長い期間となり、県内各地区運営委員会には今まで以上に役員・会場の確保等に協力体制が必要となってくるので、自治体等諸連盟の協力を得ながら進めていく。

このように、当連盟では目的達成を目指し今まで以上に活気のあるものにしていくために、改革はリーグのシステムだけでなく複数大会の統合により、登録全チームに全国大会への道をより近付け、多くのチームに夢を持ってもらえることができる

大会開催についても検討中であり、サッカーの楽しさをもっと多くのチームや関係者に知ってもらうことも期待される。

埼玉県社会人サッカーリーグ  
統括運営委員長松沢喜久夫



## 平成19年度予算について

はじめに予算配分に当たり各種別・委員会に予算要求書の提出をお願いしましたところ、事業費として配分予定額の165%の要求がありました。

また、本年度事業の特徴として国体関東予選・関東中学校大会・関東女子選手権大会・関東選抜少年大会・フットサル関東大会・JFLへの昇格を決定します地域リーグ決勝大会など関東協会等からの受託大会が多いことが特徴です。

さらには、SFAミッション「Wonderful Saitama」スタートの年となりますことからこれらの事業を優先し予算配分を行いました。

予算総額は3億831万3千円で前年当初比6.1%の増であります。

収入の主なものは登録料(チーム・個人・役員・審判)の占める割合が54.6%、1億6,830万8千円と多く、特に審判員6,000人増員による増額が際だっております。

JFA・関東協会からの補助金・交付金については、各種別・委員会において交付要綱を精査し、できうる限りの交付申請を行い、前年比56%増の2,196万6千円を確保いたしました。

支出について申し上げます。事業費2億5,575万円のうち1億2,123万円はJFA・関東協会への登録費で総額の実に39.3%が吸い上げられてしまいます。残りの1億3,452万円が主催・受託事業費・指導者審判養成事業等であります。

管理費は4.2%減の5,135万円を計上いたしました。

基本的には各種別委員会ともほぼ前年度並みの予算はおおむね確保できたものと思います。今後は、健全経営都財政基盤の確立を目指し、メンバーシップ制度にささえられている財源を見直し、協会の特性をいかした自社財源の確保をさらに研究する必要があります。

会員の皆様の深いご理解をお願いいたします。  
財務委員長 高橋 明

# 平成19年度収支予算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位：円)

	予算額	前年度予算額	増減
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
①基本財産運用収入	(500,000)	(3,000,000)	(△ 2,500,000)
基本財産利息収入	500,000	3,000,000	△ 2,500,000
②事業収入	(102,554,800)	(98,615,000)	(3,939,800)
(1) 参加料収入	24,898,000	23,590,000	1,308,000
(2) 事業補助金収入	21,966,800	14,085,000	7,881,800
(3) 運営受託金収入	36,250,000	41,500,000	△ 5,250,000
(4) 売店出店手数料収入	2,500,000	2,000,000	500,000
(5) リコー共益費収入	2,640,000	2,640,000	0
(6) 入場料収入	9,500,000	9,500,000	0
(7) プログラム販売収入	1,800,000	1,800,000	0
(8) 広告料収入	3,000,000	1,500,000	1,500,000
(9) 埼玉サッカー年鑑販売	0	2,000,000	△ 2,000,000
③補助金収入	(33,798,750)	(31,842,000)	(1,956,750)
(1) 日本協会補助金収入	27,598,750	25,642,000	1,956,750
(2) 県体育協会、埼玉県補助金収入	6,200,000	6,200,000	0
④登録料収入	(168,304,000)	(151,754,000)	(16,550,000)
(1) チーム選手登録料収入	113,042,000	113,590,000	△ 548,000
(2) 役員登録料収入	3,000,000	3,000,000	0
(3) 審判員登録料収入	52,262,000	35,164,000	17,098,000
⑤寄附金収入	(3,000,000)	(4,500,000)	(△ 1,500,000)
(1) 協賛金収入	3,000,000	4,500,000	△ 1,500,000
⑥雑収入	(155,450)	(855,000)	(△ 699,550)
(1) 受入利息	5,450	5,000	450
(2) 雑収入	150,000	850,000	△ 700,000
事業活動収入計	308,313,000	290,566,000	17,747,000
2 事業活動支出			
①事業費支出	(255,750,100)	(237,337,000)	(18,413,100)
(1) 競技会開催事業費	(62,113,800)	(49,120,000)	(12,993,800)
(2) 選手育成登録事業費	(96,270,300)	(97,171,000)	(△ 900,700)
(3) 指導者審判員養成登録事業費	(53,186,000)	(40,966,000)	(12,220,000)
(4) 普及調査研究事業費	(29,790,000)	(28,650,000)	(1,140,000)
(5) 代表チーム選定派遣事業費	(2,290,000)	(4,430,000)	(△ 2,140,000)
(6) 地域間・国際交流事業費	(7,500,000)	(9,800,000)	(△ 2,300,000)
(7) 広報紙等刊行事業費	(4,600,000)	(7,200,000)	(△ 2,600,000)
②管理費支出	(51,350,000)	(53,650,000)	(△ 2,300,000)
役員報酬	4,140,000	4,140,000	0
給料手当	25,860,000	28,860,000	△ 3,000,000
福利厚生費	3,700,000	4,000,000	△ 300,000
会議費	1,000,000	1,000,000	0
旅費交通費	1,500,000	1,000,000	500,000
通信運搬費	2,000,000	2,000,000	0
什器備品費	250,000	250,000	0
消耗品費	500,000	500,000	0
印刷製本費	2,000,000	2,000,000	0
使用賃借料	8,000,000	8,000,000	0
租税公課費	50,000	50,000	0
諸会費	50,000	50,000	0
慶弔費	300,000	300,000	0
交際費	500,000	0	500,000
委託費	1,200,000	1,200,000	0
雑費	300,000	300,000	0
③特別事業積立金支出	(0)	(5,000,000)	(△ 5,000,000)
特別事業積立金支出	0	5,000,000	△ 5,000,000
事業活動支出計	307,100,100	295,987,000	11,113,100
事業活動収支差額	1,212,900	△ 5,421,000	6,633,900
II 法人税等	1,000,000	1,000,000	0
III 予備費支出	212,900	60,779,000	△ 60,566,100
当期収支差額	0	△ 67,200,000	67,200,000
前期繰越収支差額	0	67,200,000	△ 67,200,000
次期繰越収支差額	0	0	0

(注) 1.前年度予算額は新公益法人会計基準に組替えて表示しています。

## インフォメーション

### ●第4種リーグ戦プログラム販売中

4種リーグ参加選手・保護者・チーム関係者には定価2,000円のところ『1,000円』で販売しています。購入を希望者される方は各チームの代表者に申し出てください。お問い合わせは(財)埼玉県サッカー協会事務局・栗島まで。



### ●PUMA CUP 第11回埼玉国際ユースサッカー大会開催

11回目を迎える「埼玉国際ユースサッカー大会」は埼玉選抜と招待2チーム、総当たりのリーグ戦で開催されます。日程と場所は以下の通りです。対戦カードとキックオフは県協会ホームページでご確認ください。

- ・7月21日(土) 埼玉スタジアム2002 第3グラウンド
- ・7月22日(日) 埼玉スタジアム2002 第2グラウンド
- ・7月23日(月) さいたま市駒場スタジアム

### ●2008年11月、「埼玉サッカー100周年誌(仮称)」発刊決定

来る2008年は、埼玉サッカー100年の年です。それを記念した100周年誌の発刊が決定しました(11月発行予定)。資料編と映像編のDVD2枚組とし、既刊である「輝く埼玉サッカー75年史」も収録します。

そこで過去25年分の資料収集を早急に行わなければなりません。各委員会の編集委員を通じて皆さんに依頼があると思いますので、ご協力をお願いします。また、ご自宅で保存されている古い資料がございましたら、事務局までリストをファクスでお送りください(25年以上のものも大歓迎です)。お待ちしております。

### ●「年鑑」のお支払いはお済みですか？

昨年3月に発行した「(財)埼玉県サッカー協会2005/2006年鑑」のお支払いはされましたでしょうか。通知は送らせていただいておりますが、再度ご確認ください。

## ブリーフノート

### ●4種リーグ開幕に向けて、記者会見を開催

3月27日、北浦和カルタスホールにて、メディアを対象とした記者会見を行った。出席者は、秋山4種委員長と横山専務理事。幅広く4種リーグ開催の意義を知ってもらうためのもので、翌日以降の各新聞に掲載していただいた。



### ●技術委員会、2006年度トレセンスタッフ総会を開催

3月4日、埼玉スタジアムのボールルームにおいて、2回目となるトレセンスタッフ総会を行った。各種別の現状報告、昨年度掲げたビジョンの反省などを行い、次年度に向けての方向性を示した。横山専務理事と小林委員長が対談するなど、SFAとの協調との中での技術委員会の役割を明確にした。



### ●大宮公園サッカー場、「NACK5スタジアム大宮」に

5月14日、さいたま市とFM NACK5は、同市大宮公園サッカー場のネーミングライツ(命名権)のパートナー契約で合意、調印式を行った。期間は6年、売却額は年額三千万円で総額一億八千万円。

### ●浦和レッズ、ACLグループステージを突破

5月23日、浦和レッズは埼玉スタジアムでシドニーFCと対戦、0-0で引き分け、ACLグループステージを突破した。これで9月からのノックアウトステージに進み、準々決勝を戦う。

順位	チーム名	試	勝点	勝	分	負	得	失	差
1	浦和レッズ	6	10	2	4	0	9	5	+4
2	シドニーFC	6	9	2	3	1	8	5	+3
3	ペルシク・ケディリ	6	7	2	1	3	6	16	-10
4	上海申花	6	5	1	2	3	7	4	+3

## 編集後記

●4月1日付にて事務局長を仰せつかりました。新米ですのでヒューヒューいながら予算編成を終えたら、今度は決算・評議員会・理事会と資料づくりに追われています。

SFAミッション「Wonderful Saitama」推進のため事務局からどんどん情報を発信して参ります。前任の宇月事務局長同様、よろしくお願ひ申し上げます。(高橋)

●5月1日から埼玉県サッカー協会に働くことになりました坂庭です。法人になる前にも埼玉県サッカー協会にいたのですが、今の流れに乗ることに苦戦しています。頑張りますので今後よろしくお願い致します。(坂庭)

●歯の痛みを大分我慢していたのですが、先月、

耐えかねて洪々歯医者へ。結果、手遅れで歯を抜くことに★早く行けばよかった(T\_T)。(こいち)

●4種リーグ戦が盛り上がりしております。「負けても次がある」リーグ戦。子供たち(選手)は生き生きとプレーしています。時間がとれましたら是非会場に足をお運び下さい。(栗島)

●今年は、サッカースクールのお手伝いが、出来なくなり残念です。指導とは異なり、普通の仕事では事務処理ばかりなので、サッカー協会のミッション、ビジョンを忘れがちです。日常業務の中でもミッション、ビジョンを忘れずにやっていきたいです。(柴)

●早いもので、1年ももう半分が過ぎようとし

ています。日本代表にJリーグにACLにフットサル!...も良いけどなでこリーグも良いですよ☆皆さん、1度いかがでしょうか! (ほうしと)

●最近まで朝晩はまだちょっと肌寒いと思っていたのに、いつの間にか昼間は暑いぐらいの気候になってきました。体が気温の変化に追いついていかないようです...。(かのう)

●現在審判委員会では、レフェリートレセンを月一回開催しております。技術的なトレーニング、講義等実際審判をする際に役に立つ内容となっております。参加資格は意欲がある方であればどなたでも。是非ご参加下さい。詳細は審判委員会ホームページをご覧ください。(東城)